

Notes on Low Altitudinal Occurrence of *Picea maximowiczii* REGAL in Yatsugatake Region, Central Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00056079

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



植松春雄*：ハケ岳地域における低海拔地産ヒメバラモミについて

Haruo UEMATSU*: Notes on Low Altitudinal Occurrence of *Picea maximowiczii* REGEL in Yatsugatake Region, Central Japan.

ヒメバラモミは第4紀の氷期を中心にして化石が多数出土している(MIKI, 1957)。このことから、ヒメバラモミはかつて日本各地に割合に広く分布していた針葉樹であることがわかる。

1982年7月31日より8月3日にかけての俗称「台風10号」によって山梨県北巨摩郡白州町、上教来石の釜無川沿岸にたくさんのヒメバラモミ(*Picea maximowiczii*)、トウヒ(*P. jezoensis* var. *hondoensis*)、チョウセンゴヨウ(*Pinus koraiensis*)等の球果や根、茎、樹幹等が立木の状態で出土してきた。

(植松, 1986; NOSHIO et al., 1987) それらのものの放射性炭素による年代測定の結果では今から50,000年以上前のものであることがわかった。したがって上教来石付近には更新世にヒメバラモミを主とする大きな森林が存在していたことが予想できる。

ヒメバラモミの現生のものは長野県下、霧ヶ峰民有林、ハケ岳西岳国有林、南アルプス仙丈ヶ岳付近の国有林などで見受ける。これ等の地域における分布海拔はおおよそ1,800mを中心にしていて、垂直分布上では亜高山帯である。ところがハケ岳周辺地域には低海拔地に生育しているヒメバラモミが時々みつき、これらの分布地の調査をここ数年つづけてみたところ、いくつかの新しい産地がみつかった(図1)。そこで従来から県指定天然記念物になっていた「樋沢のヒメバラモミ」をも含めて、ここに報告しておく。

観察と議論

現在までにヒメバラモミのハケ岳南麓山梨県須玉町、長坂町、長野県川上村、富士見町

等の地域における9ヶ所(枯木を含む)のものとヒメバラモミの変種に位置づけられているアズサバラモミ(*P. maximowiczii* var. *senanensis*)の1ヶ所について、その産地を図に示し、そこに生育する樹木の規模の説明を表にして示した。

(1)ヒメバラモミの自然分布はもともと少なく、特に低海拔地における存在は極めて稀である。しかるにハケ岳南麓周辺での山梨県北巨摩郡長坂町や須玉町等の低海拔地に大木の現生個体が分布していることがわかってきた。またハケ岳東麓では長野県南佐久郡川上村、西麓では諏訪郡富士見町等の屋敷林や神社、仏閣等の境内林等での分布が8ヶ所あり、また、落雷で枯死した大木2ヶ所が見出された。(図表および写真参照)

(2)ヒメバラモミは元来、氷期に栄えた植物であって、現在では本州、四国、九州等から化石状態で出土している(MIKI, 1957)。

氷期における繁栄と氷期の地層からのヒメバラモミの化石としての出土からすると、地球が温暖な気

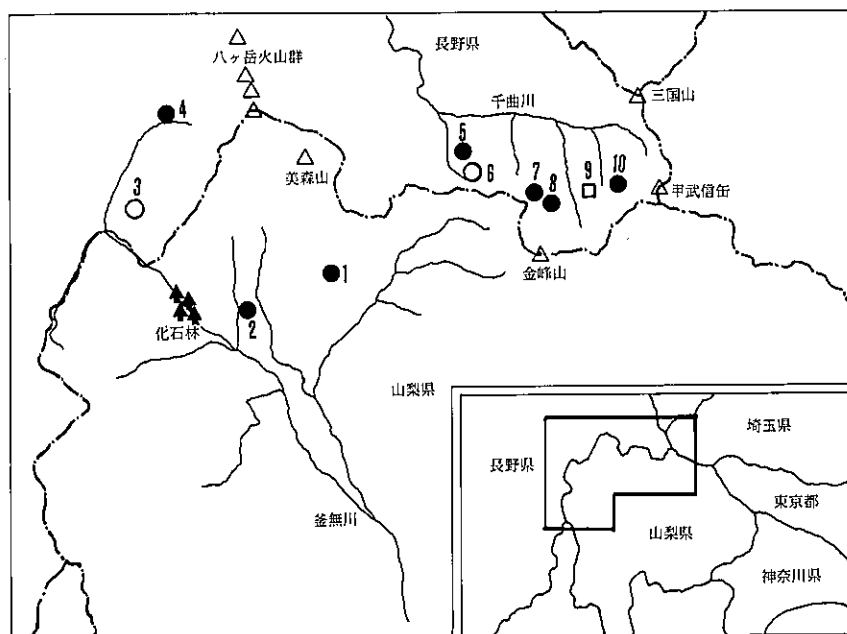


図1. ハケ岳地域低海拔地ヒメバラモミの分布。黒丸は現存、白ぬきは枯死木、四角はアズサバラモミ、数字は表1に対応。

* 山梨学院短期大学: Yamanashi Gakuin Junior College

表1. ハヶ岳地域における低海拔地産ヒメバラモミ

所在地	所在海拔	根廻り幹囲	目通り幹囲	樹高	備考
1. 山梨県北巨摩郡須玉町上津金474番地、諏訪神社境内	820m	5.6m	3.89m	約28m	昭和60年3月19日付にて山梨県指定天然記念物とされている。
2. 山梨県北巨摩郡長坂町日野12番地、向井勝氏宅地裏手。	655m	露出根廻り 6.78m	3.80m	35m	露出根廻り大。昭和62年1月21日付にて山梨県指定天然記念物となる。長坂町誌作成時気づいたもの。
3. 長野県諏訪郡富士見町落合上篇木、三光寺、石段を登って上左側。枯木。	約720m	5.50m	2.30m	地上約10mにて切除。	落雷のため枯れたが、地上約10mにて切除し、その切口に金属冠をかぶせて保護している。本樹の近くに信者によってトウヒ属とおぼしいもの3本が植えてある。
4. 長野県諏訪郡富士見町池袋6774番地、平出六郎氏宅地裏手。	910m	5.30m	2.30m	22m	モミとともに林をつくっていて、ヒメバラモミの球果が数多くおちている。
5. 長野県南佐久郡川上村樋沢字御前下1.241番地、伊勢社境内。同一規模のヒメバラモミが2本ある。昭和35年2月11日付にて長野県指定天然記念物となる。(AB株)	1,185m	A株4.30m B株4.20m	A株4.25m B株4.10m	A株42m B株43m	小海線のレールに近いものをA株、レールより遠く位置しているものをB株とする。A、B株とも斜面にあるため根廻りが上地面、下地面の差が約90cmあり正しい測定が難しい。付近にはヒメバラモミの球果の落下が多い。
6. 長野県川上村、御前神社境内(枯木)。	1,185m				落雷のため大木であったものが枯れたが、枯木そのものも大切にその一部が保存されている。
7. 長野県南佐久郡川上村秋山、林家墓地。	約1,300m	2.4m	2.3m	約22m	それほどの大木ではないがヒメバラモミの球果が目立つ。
8. 長野県南佐久郡川上村秋山、田野口家墓地。	約1,300m	2.9m	1.8m	約13m	大木ではないが球果をもつているし、その落下しているものを確認できる。
9. 長野県南佐久郡川上村梓山(アズサバラモミ <i>Picea maximowiczii</i> REGEL var. <i>senanensis</i> HAYASHI)	約1,350m	95cm	84cm	約18m	ヒメバラモミの変種でアズサバラモミと命名されていて、球果が大きい。ここではヒメバラモミとして扱う。川上村天然記念物に指定されている。
10. 長野県南佐久郡川上村梓山。上記9.のアズサバラモミに近い林内にヒメバラモミ4本がある。	約1,370m	約80cm	約75cm	約15cm	10のアズサバラモミに近い場所に約4本のヒメバラモミがある。球果の落下が目につく。

候を呈している現在ではヒメバラモミの自然分布地はハヶ岳周辺では、氷期にその気候が似ている海拔であるおよそ2,000m付近の亜高山帯であるべきである。事実、ハヶ岳、南アルプス等の亜高山帯にはその自生分布と思われるものが見受けられる(林, 1969; 植松, 1970)。

ところがハヶ岳山麓でのヒメバラモミの須玉町、長坂町、富士見町等での海拔700~1,350m付近の低海拔地での図1ならびに表1のような分布事実は興味深い。

(3)低地にヒメバラモミの大木が生育しているのは、写真に示すように、神社、仏閣の境内林や屋敷林の中で、大木になるヒメバラモミが伐採されることなく保護され、それが巨樹にまで成長するにつれて、いよいよ御神木の役割をも果しつつ、樹幹にしめ飾りをもつてながらその貫禄や歴史を宿し、信仰上からの価値をも果すようになったのではないかと考えられる。

それにしても海拔655~1,370mにかけての低海拔地にヒメバラモミが生育し、しかも増殖しようという事実は注目すべきことである。

(4)梓山のアズサバラモミ

梓山のアズサバラモミはヒメバラモミ (*Picea*

maximowiczii) の変種 (var. *senanensis*) とされているものである。変種にするには個体数が少ないが、筆者は別の報告 (UEMATSU, 1986) でトウヒ属のハヶ岳周辺での著しい分化と遺存についてふれてきた。この問題と関連したトウヒ属のものの形質分化の多様性にも注目しつつ今後も研究をつづけてみたい。

引用文献

- 林 弥栄, 1969. 有用樹木図説. 誠文堂新光社.
 MIKI, S. 1957. Pinaceae of Japan, with Special Reference to It Remains. Jour. Inst. Polytech. Osaka City Univ. Series D. 8: 237~244.
 NOSHIRO S., M. MINAKI, M. SUZUKI and H. UEMATSU, 1987. Middle Peistocene forests buried in the Kyoraishi Gravel, Yamanashi Prefecture, central Japan. J. Phytogeogr. & Taxon. 35: 145-158.
 植松春雄, 1981. 山梨の植物誌. 502pp. 井上書店.
 —, 1984. 釜無川国界橋付近の化石林について, 第一報, 甲斐路 (山梨郷土研究会). 50: 62-72.
 —, 1986. 釜無川沿岸の化石林. 植物研究雑誌 61: 30-31.

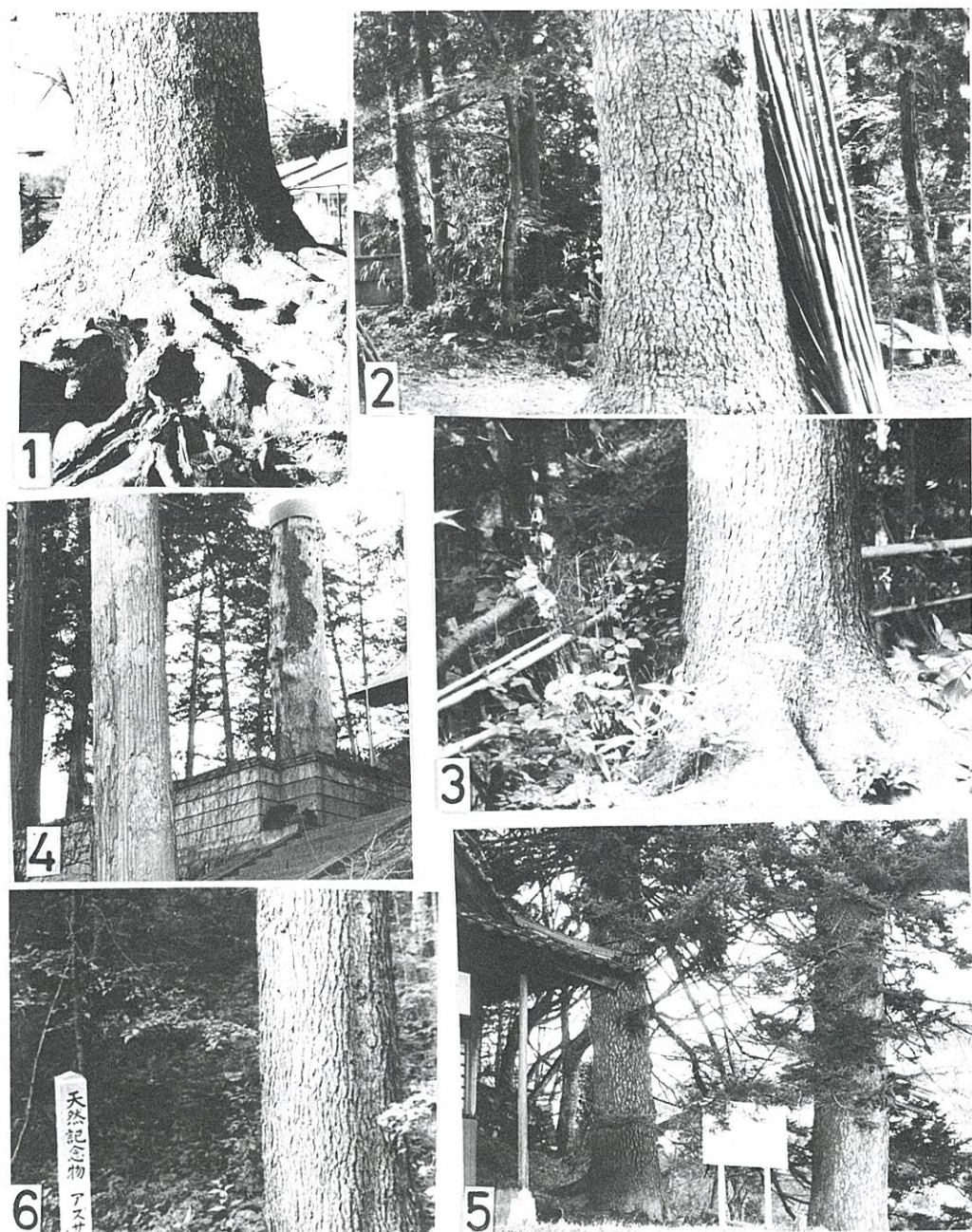


写真1 山梨県北巨摩郡須玉町上津金のヒメバラモミ。2. 山梨県北巨摩郡長坂町日野のヒメバラモミ。3. 長野県諏訪郡富士見町池袋のヒメバラモミ。4. 長野県諏訪郡富士見町三光寺の冠をかぶせたヒメバラモミ(枯木)。5. 長野県南佐久郡川上村樋沢のヒメバラモミ(2本)。6. 長野県南佐久郡川上村梓山のアズサバラモミ。

Summary

Although *Picea maximowiczii* is common in the glacial age of Japan, living trees are rather rare and their distribution has been considered to be restricted in the subalpine region of central Japan. Recently I found them at several places in the low

altitudinal Yatsugatake region. At these places they are preserved as garden trees of shrines, temples and others. In this paper, they are described ecologically and phytogeographically.

(Received June 30, 1987)